令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立鏡山小学校

1　前年度 評価結果の概要	【成果】①　危機管理体制の整備として、原子力防災に係る保護者引き渡し訓練を実施することができた。 ②　危険個所に飛び出しキッズを設置したり、交通指導に毎朝立つ場所を増やしたりと事故防止に努めることができた。 【課題】①　人権同和教育推進のために校内体制を整えたり、児童・保護者・職員の人権意識を高めたりする取組が必要である。 ②　特別支援教育の充実を図り、さらに個に応じた教育を進める。
2　学校教育目標	自ら考え行動し　いきいきと学ぶ児童の育成
3　本年度の重点目標	【知】①　学習規律を整える。　②　話合い活動を通して考えを深める授業を展開し、児童の学ぶ意欲を高める。 【徳】①　児童・保護者・職員の人権意識を高めるために、校内体制を整える。　②　特別支援教育の充実を図る。 【体】①　保護者と共に食育を推進する。

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研修で定期的にマイプランを振り返り、意識化を図る。 ・校内研究により、取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は約89%いた。マイプランが授業づくりにおいてよい目標となっている。 ・全校研、グループ研共に研究主題に沿った研究授業を6回実施することができた。また、その後の研究会も実施することができ、全職員で取り組むことができた。	A	・学習状況調査の結果が県平均並み、それ以上である結果は、成果が上がっている表れと言えよう。 ・集会の感想交流の場で大勢を前に堂々と自分の考えを言える子どもたちがすばらしい。	学習指導部【瀬戸・山下】 研究主任【杉原】 副主任【緒方】
	○学習規律の確立 ・「チャイム席」の徹底 ・学習準備の徹底	○「授業開始時刻に着席することができているか」「次の時間の準備をして休み時間をしているか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85%以上	・定期的に授業開始時刻に着席ができているか、次の授業の準備ができているか、を確認し、児童への意識化を図る。	A	・12月に実施したアンケート調査で「開始時刻の着席」に肯定的に回答した児童生徒が88．9%いた。ノーチャイムになった後も、多くの児童が時間を意識していることが分かる。また、「次の時間の準備」に肯定的な回答をした児童が92．4%いた。強化週間が奏功したことが伺える。来年度は定期的に行い、更なる意識化を図りたい。	A	・「ありがとう集会」の様子を見ると、普段の様子がうかがえる。普段から学習規律がしっかりできている。	学習指導部【瀬戸・山下】 研究主任【杉原】 副主任【緒方】
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 ○人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・道徳に関するアンケートを実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学期に1回、低中高別の人権教室を実施し、人権アンケートをとる。	A	・道徳に関するアンケートにおいて「道徳の授業は好きである」に対して肯定的な回答をした児童生徒は88.7%であった。多くの児童が道徳の学習を楽しいと感じていることが分かる。 ・夏季休業中の研修を受け、授業資料などを学年で作成する	B	・コロナ差別やいじめを予防するために、道徳教育に力を入れているのはよいことである。継続してほしい。	道徳教育推進教師【久保】 人権・同和教育担当【田久保】 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○QーUにおける学校生活満足群を前年度よりも増やす。 ○認知したいじめの3ヶ月以内での解消率100%を目指す。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。	B	・「学校が楽しい」と回答した児童が約87%いた。多くの児童が学校生活に満足している。 ・一旦解消できたいじめが再発した事案があった。いじめアンケートの回数を増やし、児童や学級の様子についてこまめな情報収集・共有を心がけたい。	A	・いじめアンケートだけでなく、校長室前にお手紙を投函できるポストを設置しているのはよいことだ。	生活指導部【佐藤・北川生】 各学年主任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動【志を高める教育】	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童70%以上	・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の変容に気付かせていく。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について「はっきりともっている」「どちらかというともっている」と肯定的に回答した児童が82.1%と、目標を上回った。ただ制約の中での体験活動の実施を通して自己の成長や変容、夢や目標を現実的に感じることが十分にできたとは言い難い面もある。さらなる体験活動の充実に努めたい。	B	・6年生の姿を見て、このまま自己肯定感を高めて中学校へ進学してほしいと感じた。 ・米作りやイモ栽培など農業体験活動を続けることは大切だ。	主幹教諭・教務主任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上	・保護者への啓発を図るために「保健だより」を発行する。 ・食事の大切さを実感したり命や作る人への感謝の気持ちをもったりできるよう、給食時間等を中心に学年に応じて指導を行う。	A	・「健康に食事は大切である」について、肯定的な回答をした児童が97.2%、「朝食をとって登校している」について、肯定的な回答をした児童が97.1%、保護者が96.8%と、どちらも目標を上回っている。しかし、朝食で何を摂ってきたかということまではしっかりと把握できておらず、児童の健やかな成長を考え、バランスや栄養を考えた朝食となるよう、さらに保健だよりでの呼びかけや放送などを行っていきたい。	B	・給食がセンター方式になったことで、ゆっくり食べる時間がないのではと心配しているが、センターから食育の資料が届いている、子どもたちが自分の食べる量を選べる、という話を聞いて安心した。	健康指導部【野上・森下】 学校栄養職員 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議1時間以内を実行する。 ・学校や学年行事を見直し、組み合わせられるもの、縮小できるもの、削減できるものなど運営委員会を中心に考えていく。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。	A	・10月から留守番電話サービスを導入したことによって、18時以降の電話対応がなくなり、効率が上がった。また、18時が退勤時刻の目安となり、時間外勤務の削減につながっている。 ・電話回線を増やしたことで、電話待ちをする無駄を解消できるようになった。 ・時間外勤務45時間以内の達成者が1月時点で43人に増加した。	B	・数年前に比べて、職員の退勤時刻が早くなったと聞いてよかった。 ・留守番電話サービスを取り入れた効果があったのはよかった。職員のみなさんも自分のお子さんや家庭を大事にして欲しい。	企画会
	○教職員の連携促進	○「自己のタイムマネジメントをしながら業務にあたることができたか」「学年や部会で仕事の分担ができているか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70%以上	・運営委員会や学年主任会で主任や部長に働きかけることで協働意識を高める。 ・業務の負担に偏りがないか、企画会メンバーで情報共有し、対応する。	B	・「月の時間外勤務45時間を意識して内自己のタイムマネジメントができたか」の問いに対し、肯定的な回答が約57%にとどまっている。一方、「学年や部で仕事の分担ができたか」の問いに対しては、肯定的な回答が約86%で、目標を達成できた。 ・掲示板や回覧板の活用により、情報共有が効率よくでき、業務分担も行いやすくなっている。さらに、地域ボランティアを活用したり、児童に任せるべきところを増やしたりしていきたい。	A	・「鏡校区見守り隊」が発足したのは、よいことだ。地域や保護者がもっと学校に協力するよう呼びかけたい。	企画会

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	・特別支援担当者が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援部より年6回程度発行し理解を図る。	B	・全校的には、衝動的に学校や教室を飛び出さずに感情をコントロールしようとする児童が多くなった。様々な特性に応じた適切な支援ができるように、教員の支援技術をさらに高めたい。また、道徳や総合などの授業や講演会などを通して、児童や保護者に対して、特性への理解を深める取り組みをしていきたい。支援記録については、情報共有だけでなく、子どもの変容を記録するものとして今後の支援に生かしたい。 ・通信「みんなちがってみんないい」では、保護者からの返信をいただいたことで、双方向でのやり取り行うことができた。さらに特別支援教育への理解を深めるような内容にしていきたい。	A	・一人一人に寄り添って指導してあるため、「ありがとう集会」では、各学年よくまとまっていると感じた。	特別支援部【松尾・佐々木】
○予防的・開発的指導	○基本的生活習慣の実態把握と改善指導	○生活目標のうち「あいさつ」「安全のきまり」「無言清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による啓発を行う。 ・生活指導協議会で児童の実態を把握し、全職員で共通理解を図り、指導重点項目の徹底を目指す。	A	・「あいさつができている」と回答した児童が約91%いた。昨年度よりも5%ほど向上しており、生活指導部による指導や代表委員会を通した児童主体の取組の成果が出ている。「安全に気をつけて生活している」と回答した児童が約90%いた。多くの児童が意識しているものの、登下校や休み時間におけるトラブルや事故が十数件起こっている。全職員での継続した指導が必要である。「無言掃除が守れている」と回答した児童が約67%にとどまった。学年や委員会の活動と関連させた取組を増やしていきたい。	A	・子どもたちは地域でもよくあいさつをするようになった。	生活指導部【佐藤・北川生】 特別活動部【坂口・松野】

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	業務改善・教職員の働き方改革につながる取組を更に充実させることで、教職員が児童と向き合う時間を増やし、より多くの児童が、「勉強がよくわかる」「楽しい」「安心できる」と思える学校づくりを進めていきたい。